



「ハチ刺傷」にご注意！

毎年、日本でも 30 から 40 人が蜂刺傷にて生命を失っています。全身症状が出現した場合は、早急に医療機関を受診してください。

蜂に刺されたときの症状は、蜂の毒そのものの薬理作用とアレルギー反応によるものがあります。蜂の種類により症状は異なりますが、局所症状としては赤く熱をもった腫脹、痛み、かゆみなどで、1～2週間程度持続します。

全身症状としては、くしゃみ、じんま疹、頭痛、吐き気、嘔吐、腹痛、冷や汗、呼吸困難、血圧低下などがみられ、「アナフィラキシー」と呼ばれるショック症状を起こすこともあります。アナフィラキシーショックは、約 15 から 30 分の短時間で生じ、大変危険な状態です。少しでも全身症状が認められ、様子がおかしいと感じたら、救急車を呼ぶなど速やかな対処を要します。以前に蜂に刺されたことのある人、皮膚症状の激しかった人は、アナフィラキシーショックを起こしやすいといわれています。

蜂にさされないために下記のことを守りましょう。

- ① 蜂の巣に近づかない
- ② 白っぽい服を着る（花模様の服や黒い服はさける）
- ③ 芳香のある化粧品避ける
- ④ 蜂のいるところでは立ち止まらない
- ⑤ 不用意に藪の中に入らない
- ⑥ 見張りの蜂をみかけたら、蜂の巣が近いので注意するなど

蜂にさされ、全身症状が出現した場合は、救急車を呼ぶなど早急に医療機関を受診してください。

（鹿児島市立病院「スズメ蜂刺傷マニュアル」などを参考にして、作成しました。）

保健管理センター